

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道212号 中津三光道路	事業区分	一般国道	事業主体	大分県
起終点	自：大分県中津市大字伊藤田 至：大分県中津市三光西株		延長	2.9 km	
事業概要	<p>中津日田道路は、重要港湾中津港及び東九州自動車道・九州横断自動車道と連結して、広域かつ効率的なネットワークを形成する地域高規格道路である。当該区間は、重要港湾中津港と東九州自動車道のアクセス強化による物流の効率化及び地域連携のプロジェクトを支援し、また、中津市街地における交通の円滑化に寄与するものである。</p> <p>また、国幹会議で東九州自動車道椎田南～宇佐間の整備方針が決まり、アクセス道路となる本道路の整備を早急に図る必要がある。</p>				
事業の目的、必要性	<p>一般国道212号は、周防灘地方生活圏と日田玖珠地方生活圏を結ぶ主要な幹線道路であるが、現道は昭和40年代の改良区間であるため急カーブ等が連続しており、走行性が悪く交通事故も多発している。路線は「地域高規格道路」の計画路線の指定を受けており、地域としても整備路線への要望も強く、中津港及び東九州自動車道と九州横断自動車道を結び、また高規格幹線道路を補完し、当道路を軸とした地域ネットワークを形成する必要がある。</p>				
全体事業費	140億円	計画交通量	14,700台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
中津日田間地域高規格道路促進期成会が組織され、自治体をはじめとする地域全体での早期整備への気運が高まっている。

事業採択の前提条件
 ■便益が費用を上回っている。
 ■円滑な事業執行の環境が整っている。（平成11年11月都市計画決定済）
 （平成11年度環境影響調査済）

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.4	総費用：125億円 （事業費：114億円 維持管理費：11億円）	総便益：297億円 （走行時間短縮便益：239億円 走行費用減少便益：25億円 交通事故減少便益：33億円）	基準年 平成17年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 2.1 (交通量 -10%)	B/C= 2.6 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C= 2.6 (事業費 -10%)	B/C= 2.2 (事業費 +10%)		
	事業期間変動	B/C= 2.5 (事業期間 -20%)	B/C= 2.2 (事業期間 +20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	通過交通が排除され、現道の走行性が向上し、渋滞損失時間は減少する。 【渋滞損失時間の改善】当該区間 約10.5万人時/年（約15.5万人時/年→約5.0万人時/年） 中津日田間 約12.5万人時/年（約89.9万人時/年→約77.4万人時/年） 【1kmあたり渋滞損失時間】 当該区間 約3.9万人時/年km（現況） 中津日田間 約1.6万人時/年km（現況） 大分県平均：約0.8万人時/年km（当該区間：約4.9倍、中津日田間：約2.0倍） 九州平均：約1.3万人時/年km（当該区間：約3.0倍、中津日田間：約1.2倍） 【渋滞度曲線】 大分県内センサス区間の上位2割に含まれる。 【その他の特徴】 中津三光道路区間の国道(212号)中第3位の渋滞損失時間		
		事故対策	○	通過交通が排除され、事故件数の減少が見込める。 【死傷事故率】当該区間 約134.2件/億台キロ（現況） 中津日田間 約96.7件/億台キロ（現況） 大分県平均：約71.4件/億台キロ 当該区間（約1.9倍）中津日田間（約1.4倍） 全国平均：約119.9件/億台キロ 当該区間（約1.1倍）中津日田間（約0.8倍） 【その他の特徴】 通過交通が排除され、現道の安全性が向上する。		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	○	東九州自動車道中津三光ICと連絡することにより三次医療施設へのアクセス向上が図られる。		
		地域経済	○	重要港湾中津港周辺の田尻流通業務団地等の地域開発事業を支援し、地域経済の活性化に寄与する。（日田市～中津港 77分 ⇒ 51分）		
災害		○	東九州自動車道中津三光ICと連絡することにより緊急輸送道路（1次ルート）の機能強化が図られる。			
環境		○	CO ₂ 年間排出量が、3,948 t/年削減される。 通過交通の排除による渋滞の軽減により、沿道環境の改善が図られる見込みである。 環境影響調査の結果、問題なし。			
	地域社会	○	市町村合併による旧市町村間を結ぶ基幹道路として、新市における地区間連携に寄与する。（中津市、三光村、耶馬溪町、本耶馬溪町、山国町）			
事業実施環境	○	中津日田間地域高規格道路促進期成会が組織され、事業に対する気運が高まっている。都市計画決定、環境影響調査済みである。				

採択の理由

- 平成18年2月に開催された、第2回国土開発幹線自動車道建設会議において、東九州自動車道椎田南～宇佐間の整備方針が決まり、アクセス道路である本道路の整備を早急に図る必要がある。
- また、重要港湾である中津港と東九州自動車道の連絡性の強化を行う必要がある。
- さらに、当該事業箇所の現況渋滞損失時間及び事業実施による改善はともに大きく、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。
- 以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。